

「山口市中心市街地周辺地区」都市再生整備計画 事後評価委員会
議事録

日時：令和7年12月18日（木） 13：30～15：00

場所：山口市役所 101 会議室

出席者

委員： 5名（委員A～Eと表記）

事務局： 4名

計9名

議事 1. 「山口市中心市街地周辺地区」都市再生整備計画の事後評価

協議（質疑）内容	
(委員C)	商店街全体として、感覚的に通行量が減っているとは感じないが、数値で見ると、令和元年から令和7年で半分ぐらいになっている。
(委員A)	一方で、空き店舗率は下がってきている中で、何か通行量が大きく減った要因というのは考察できているか。
(事務局)	⇒ コロナを境に生活スタイルが変わったが、ある程度は回復すると思っていたものがなかなか回復しないという数字が出てきてしまっていると考えている。 ⇒ 11箇所の定点観測を累積した数字であるため、地域内での移動が少なくなり、結果として累積の数字が小さくなっていると思われる。
(委員C)	例えば、商店街近くの駐車場の利用率を比較してみるのはいかがでしょうか。
(委員A)	中心商店街通りから西側の減少率が少なく、東側の落ち込みが大きくなっている。西側には駐車場や利便施設があつて、東側が良くないとか、色んな考察ができそうだと思う。
(事務局)	⇒ 要因の1つとして、アーケード内の工事も考えられる。現在は、西門前側の方でも工事を行っているため、なかなか数字も捉えづらいつころがある。 引き続き通行量を確認し、今後も考察していきたいと思う。
(委員C)	大殿地区は色んな道路の美装化が進んだが、路肩歩道なので白石地区のアーケードのような美装化とは異なる。そのため、綺麗になったことで満足感が高いのではないかと思う。評価し始めてから、比較的ずっと高い水準を保っているため、これはありがたい数字だと思う。
(委員E)	道路に関する満足度の指標について、道路整備が進んでおり歩きやすくなっているため、指標のとおり、白石地区・大殿地区の満足度が向上しているのは当然であり、評価は妥当だと考えている。
(委員C)	感覚的には私も同じ意見である。工事時期とアンケート時期が関係していると思うが、白石地区・大殿地区の住民としては、あまり数字を気にしすぎることはないと思う。

- (事務局)
- ⇒ 本来、都市再生整備計画の数字は、着手前と完了後と比較するもので、中間の数字は、参考としてどう変わっていったのかを見るための資料として添付した。
 - ⇒ この地区における都市再生整備計画は、引き続き継続していく事業になるため、先ほどの通行量と合わせて数字を追っていき、最終的には次期計画を進めたのち、着手前の数字と10年後の数字を比較していきたいと考えている。

議事 2. 今後のまちづくり方策

協議（質疑）内容	
(委員B)	次期計画の目標値は変わらないのか。
(事務局)	<p>⇒ 次期計画の目標値については、国とも協議している途中であるため、空欄にしている。通行量が下がってきていることから、同じ目標を使うとすれば向上ではなく、現状の交通量を減らさないようにしていくのが現実的な目標値であると考えている。</p> <p>⇒ 満足度についても、多くの地区では増加してきているが、当地区は上限値に近いと考えている。我々の方でも検討途中であり、この数値についても国と相談しながら、少なくとも横ばい以上か、増加していく数値にしたいと考えている。</p>
(委員B)	19 ページの、新たな課題の「各地区の魅力向上に資する取組の連携」というのは、どういうことを意味しているのか。
(事務局)	<p>⇒ ここでいう中心市街地における各地区とは、『大内文化ゾーン』、『亀山ゾーン』、『中心市街地ゾーン』のことで、それぞれ魅力が異なる地区を連携していきたいという意見である。</p> <p>⇒ 現在、都市再生整備計画の中でゾーンの整備を進めており、それらを繋いでいく取り組みが色々なところで徐々に見られている。今後、イベントなども連携することで回遊性にも繋がり、他の地区に行って魅力を感じてもらえたらリピーターになってくれることを期待して、各地区の魅力を繋げていくという内容になっている。</p>
(委員B)	5年間で具現化できるような内容なのか。
(事務局)	⇒ 5年間で整備完了するとは現段階でいえないが、今はそれを見据えて整備を進めている。
(委員C)	それぞれの地区に魅力があるといいながら、都市整備としてみると、道路の整備が中心となっている。それ以外にも色々な要素があるため、その結節点の示し方については、工夫する必要があると思う。
(委員B)	結局、ソフト展開をどうしていくかというのが、歩きたくなるまちづくりにつながるような気がする。

- (委員C) 都市整備の役目としては、道を繋いでいくというような書き方をした方が
良いかもしれない。
また、歴史的背景を含めた結節点の作り方が非常に大事だと思う。そこをう
まく表現して、他の地区とは違うということを示してもらいたいと思う。
- (事務局) ⇒ 今回実施した事業の評価であるため、ソフト事業に関してどのように
展開していくかが課題だと思っている。
- (委員A) ただ、我々が求めているまちづくりの方向性としては、ソフト・ハード両
面を含めて考えているのは当然なので、先ほどのまちづくりの課題と方向
性について、ソフト面も含めた形で記述できればと思う。
まちづくりの方策の2つ目、ゾーンの中にこういう軸があって、軸と軸が交
わる場所に結節点があるとか、具体的にここがそうだとか、そういったこ
とを総合的にまとめあげていくような書きぶりの方がいいと思う。
- (事務局) ⇒ 特に、今後のまちづくり方策は次へ繋がる重要なものになるため、いた
だいたご意見を参考にしながら、事務局の方で検討したいと思う。
- (委員C) 「次が見える」ことが大事であるため、道路の整備に限らず、道しるべのよ
うなもので道を繋いでいくということも考えられるのではないかと。
色々な計画がある中で、この計画の中で果たすべき使命は何か、どういった
取り組みをしているのかを明確に示していくことが大切ではないかと思
う。
- (事務局) ⇒ 事業主体が異なる事業について、具体的な内容を記述することは難し
いかもしれないが、こうした取り組みを進めることで、まちとしての連
携が高まり、魅力が向上するという点を、課題の一つとして整理し、次
のまちづくりへつながるような形で記述したいと思う。
- (委員A) 未達成の指標が2つあるが、次期計画に与える影響は大丈夫か。
- (事務局) ⇒ 数値について、今回この事業の実施と効果を表す意味で、通行者数とい
う数字が達成度を測るものさしとして良かったのかということも含め、
次期の中心市街地活性化計画などの指標の捉え方も踏まえて、どう
いった指標がよいかについては考えていきたいと思う。
⇒ 通行量は11箇所の定点観測の数値を用いているが、場合によっては観
測数をピンポイントで絞ることも考えながら指標を考えていきたいと
思う。

(委員E) 商店街の美装化が進んで道路が良くなっている。これまでタイル舗装だったため、破損する都度修繕していたが、その維持管理費についても支出がなくなり良かった。

白石地区は教育という魅力だけではなく、日常の買い物等でも歩いて利便性が良いまちなみになって、多くの方々が居住したいまちになってほしい。道路を整備することで、このまちで生活したい気持ちが高まると思うため、引き続き完成していない路線の整備を進めてほしい。